

## パネルディスカッション概要報告

- パネリスト
1. 一般社団法人 JEAN 事務局長 小島あずさ氏
  2. 鳥取県漁業協同組合 漁政指導部長 前嶋宏氏
  3. 兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ 岩本敏浩氏
  4. 鳥取大学農学部生命環境農学科 准教授 田川公太郎氏
  5. 琴引浜ガイドシンクロ 丸田智代子氏
  6. 山陰海岸ジオパーク推進協議会 村尾久司氏

## 【内 容】

(小島) 各パネリストから一言ずつ言っておきたいことをどうぞ。

(前嶋) 日本と韓国の共有の漁場である日韓暫定水域では、韓国漁業者によりカニカゴや刺し網が設置され我が国の底曳網漁業者は操業ができず、韓国漁業者による独占状態が長く続いている。政府にもこの問題を解決するよう働きかけているが、解決に至っていない。

悲しいことに自分たちが操業できない地区を20年間掃除している。

韓国側が放置した漁具等を回収、処分し、海底をきれいにすると、また韓国側が底に網などを設置し操業する。これを20年間繰り返している。そのようなゴミを毎年8月猛暑の中2週間程度の期間で700t程度回収している。

(岩本) インターアクトクラブは国際理解を目的にしている部活動。人と自然の関わり合いの共有をする。ゴミではなく海岸漂着物と呼ぶ。漂着物を新たなプランターなどにリサイクルし、幼稚園などに持って行くことで、人とふれあい、社会奉仕にもなる。

(田川) 日韓学生による海洋漂着物回収のプログラム。

韓国の南ソウル大学の安先生が日本に来た際に、日本海側の韓国からの漂着物の多さに衝撃を受けられ、韓国の学生にこの現状を知ってもらいたいと、始まったプログラム。今年で14年目。

鳥取から福井県までの海岸ぞいのゴミ清掃や環境セミナーや学習会をする。学生や地域のひととふれあいながら、国際的な環境問題など将来どうなっていくべきかを話し合うのが大きな目的。

今年はマイクロプラスチックを中心に、海岸で25センチ四方の砂浜のゴミを数えた。

韓国の学生は、自国からのゴミの状況を見て恥ずかしいと口にする。自国での活動を見直そうと、日本のゴミを持ち帰り、現状を韓国で報告されたこともある。

(丸田) ジオパークの東端、京丹後市からやってきた。小島さんとは、長いご縁。

昨年11月に私たちが開いた最初の講演会をきっかけに、今日、ジオパークの西（鳥取）でプラスチックを考えようという機会が持ててありがたい。ゴミは西から流れてくるが、今回は山陰海岸ジオパークの東から西のほうへ発信でき嬉しい。

今年6月に2日間、香港から環境教育のために来ていた学生がこう言った。「自分が拾っても周りの人が捨てるから意味がないと思っていたが、やはり拾わないといけなかった。」

琴引浜は170人、50軒くらいしか家はないが、村人全員がゴミを見つければ拾う。きれいに見える琴引浜でもマイクロプラスチックがたくさんある。世界の人と一緒にこの問題は発信していかなければならない。世界の人みんな家族で、家族の国のことを思えば

拾えると思う。

(村尾) 残りの人生をマイクロプラスチックの削減と地球温暖化の防止に半生をかける。生活の質を落とさずにプラスチックゴミを減らすためにできることを全てやっている。ゴミ削減大作戦をした結果、日本人の平均の15パーセントに減った。日本人はリサイクルしておけば環境に優しいと勘違いしているかもしれない。間違いではないが、優先順位は下にくる。リフューズ・リジェクト=断る、リデュース=減らす、リペア=修理、リユース=繰り返し使う、優先順位の一番下がリサイクル=再利用。なぜ減らさないといけないかというのと、日本でペットボトルが回収される率は84パーセントと低くないが、リサイクルされる率は13パーセント。ほぼ燃やされるか埋められるか海外に運ばれ野積みに置かれ海に流れでる。

(小島) 各パネリストの活動に敬意を表す。

パネルディスカッションの討論テーマは「今やっている活動に加えてやってみたいこと。」

(田川) 1つ目。高校生と活動、環境教育など横のつながりをつくりたい。2つ目。国際交流でいうとベトナムやインドネシアなどとも交流しているので、日本だけ韓国とだけでなくアジアまで交流大学と交流プログラムを広げたい。3つ目。学術データをまとめ、地域の活動や政策につながるようなデータを作成したい。

(岩本) 7年前に野柳地質公園に学生を連れて行きゴミ拾いなどをしたが学生交流は出来なかった。田川先生の韓国との交流は羨ましい。ジオカヌーや回収活動など高校生が活動するのに別の高校から自腹で来る。やりたいことはたくさんあるが、活動する際の移動など、資金面の問題などがクリアされることが願い。

(小島) 海岸漂着物処理推進法を国が政策を出している。県の予算もあり、普及啓発等に使用できるので参考までに。

前嶋さん、漁業者として海底のゴミを回収されている活動を一般の人がついて行って見せてもらうということは難しいかもしれないが、何かの機会に多くの人に聞かせるような機会や何か思いはありますか？

(前嶋) 今回は、休漁中に回収しているゴミ清掃の活動を紹介したが、操業中も網の中にゴミは入ります、多いときにはゴミの中から魚を選び出している状況。しかしゴミを持って帰ってこられないのが現状。一週間くらい船の上にいるとゴミを置くところがないくらいゴミが上がってくる。操業中にもゴミの処理をしたいという思い。

(小島) 底引き網をかけゴミを見せてもらったことがある。少ないと言われながらも驚く量が上がった。漁業者が処理に出しているとのことであったが、魚をいただく消費者教育のなかでも伝えていかなければならない。

丸田さん、さらにこんなことやりたいということがあれば教えてください。

(丸田) 鳴き砂文化館という拠点があるので、皆が来て、ここに来れば海ゴミ問題のことが分かる施設にして、学んでもらえる形を作りたい。

また関心のない人たちにも関心を持ってもらうきっかけをつくりたい。

(小島) 村尾さん、減らす出さない活動をされているが、今回様々な人がいる中で、一緒にこんなことが出来るというひらめきはありますか。

(村尾) 私は科学者でも研究者でも教育者でもない、一市民。普及していく、ザビエルになるのが仕事と思っている。現在は山陰海岸ジオパーク推進協議会として講演会をしたり、中学校で話したりしている。自分の活動を話しに行く機会に呼んでいただけたら幸い。

- (小島) 全ての人が村尾さんの様になるのは難しいと思うが、やろうと思えばできること。大学や高校生にでも聞かせてあげたら楽しい話。海のゴミ問題についてこんなつながり、ネットワークとしてこんなことができるというアイデアはないですか。(参加者へ呼びかけ)
- (一般) 前嶋さんに是非やって欲しいことがある。韓国にチェジュジオパークがあり、イカ漁とジオガイドをやっている女性がいる。漁民にこのような問題があるということを理解してほしいので、協力して何かして欲しい。
- (前嶋) 韓国も一緒になってゴミ清掃をやっている。
- (小島) 韓国ではゴミの買い取り制度がある。漁場をキレイにすると魚もとれるという教育も平行して行っている。
- (一般) 自然公園財団として鳥取砂丘の清掃をやっている。毎日犬を散歩している時にゴミを拾っていた。すると子どもから「なぜごみを拾っているの?」と聞かれた。捨てたゴミは川を伝って砂丘にまで流れ着く。海外まで流れているということも今後伝えていきたい。これからはゴミを出さない活動をしていきたい。
- (一般) いろいろな新商品がでる時に消費者への安全性や健康面などは気にする。しかしこういったゴミ問題も監視しブレーキをかけることができたらいいい。
- (村尾) 鳥取ではレジ袋を有料にしている。消費者団体の声が始まり行政が無視できなくなった。小さな活動が徐々に大きくなっていくということもあると思う。
- (小島) パネリストから最後に一言。
- (前嶋) 漁網も腐らないものに進化してやっかいな物になっている。昔はだめになったら海底で朽ち果てていたが今はいつまでも腐らず海底に残る。
- (岩本) 教育の中で生徒にどのように伝えていくか考えさせられた。メディアやマスコミの力も借りたい。公務員はSNSでの発信は難しい。みなさん是非SNSで発信してください。
- (田川) 国際的な問題なので、海外の大学との交流を含め、鳥取大学として地元への貢献として橋渡しとして大学を巻き込んでやっていきたい。地域の皆さんにも協力いただきながらやっていきたい。
- (丸田) 宿泊業もやっているが宿として何が出来るか考えた。宿泊者は、ビーチクリーンをした後、貝殻やビーチグラスを拾って鳴き砂文化館に持って行くと「証明書」をもらえ、次年度のはだしのコンサートにそれを持って行くとTシャツがもらえる仕組みをつくったが機能していない。なにができるか。  
アメニティがいない人にはキャッシュバックするなど浮かんだが実践には移っていない。村尾さんのように頑張りたい。
- (村尾) NHKで3週間プラスチックフリーの生活をしたディレクターがいた。そのディレクターが感じたことと私が感じたことは同じ。スーパーに行くと買える物がないが、個人商店では裸で売っている野菜や果物がある。さらに店主と話をした。まちなかの顔が見えた。プラスチックフリーの生活をしたことによって人間らしさを取り戻せたような気がした。スーパーが悪いとは言わないが、社会の仕組みを変える必要がある。日本ではピカピカのペットボトルしか売れないのでメーカーは毎回作り直すがドイツでは少々の傷やにごりがあっても再利用する。そのような文化が日本にも定着して社会の仕組みが変わることを望む。子どもたちから未来を奪うようなことはしたくない。子どもたちが暮らしていけないような世界は残したくないので実践をするのみ。
- (小島) みなそれぞれヒントになるものがあつたと思う。ありがとうございました。